

認知症の方と接するときの心構え

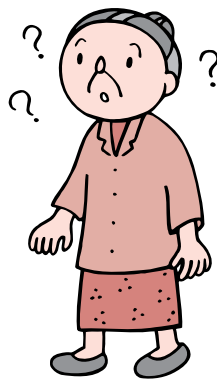
●本人にも自覚があることを知ってください

認知症の症状に最初に気付くのは本人です。物忘れによる失敗や今まで苦もなくできたことがうまくできなくなることが多くなり、何となく「おかしい」と感じ始めます。

特に、認知症特有の物忘れや言われても思い出せないなどの症状が重くなると、多くの方は何かが起こっているという不安を感じ始めます。その不安が「わたしは物忘れなんかしていない」「病院に行く必要はない」という言動など、さまざまな形となつて表れ、周囲の方が困惑することも多いと思います。

つまり、「わたしは物忘れなんかしていない」という主張は「わたしが認知症だなんて」というやり場のない怒りや悲しみ、不安から自分の心を守るための自衛反応なのです。周囲の方が認知症の病気になった方ありませんが、「わたしは物忘れなんかしていない」は認知症の方の悲しみの表現であることを知っておくことは大切です。

認知症の方は何も分からないのではありません。不安なもの、苦しいもの、悲しいのも本人です。



●さりげなく、自然に手助けを

認知症になると記憶力や理解力は低下しますが、感情は残っています。

人生の先輩として敬意をもって接することが大切です。

例えおかしなことを言っても否定したり、叱つたりしないで、まずは本人の言い分を聞きましょう。聞いてもらうだけで安心することもあります。

また、何か行動を促すときは、一つの行動ごとに、何をするのか簡単な言葉で伝えるようにしましょう。言葉だけで通じないときは、優しく手を添えて上げましょう。プライドを傷つけない、さりげなく、自然に、それが一番の援助です。

認知症を地域で支えるために

●私たちにできることは

人は誰でも、いつまでも住み慣れた地域で暮らしたいと願っています。その想いは、認知症の方も同じです。認知症の介護は長期にわたります。

認知症サポーターになりませんか

認知症サポーターとは、認知症サポーター養成講座で、正しい知識を学び、認知症の方やその家族を応援するボランティアのことで

す。何かを特別にやってもらうものではなく、「友人や家族に講座で学んだ知識を伝える」「認知症の方や家族の気持ちを理解するように努める」「できる範囲で手助けをする」など、活動内容は人それぞれです。

ぜひ、認知症サポーター養成講座にご参加ください。

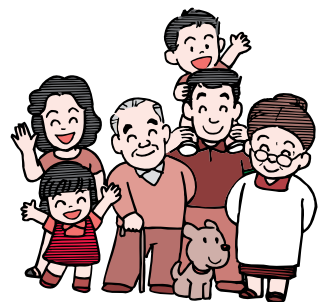
認知症サポーター養成講座を開催します

あなたも認知症サポーターになって、誰もが暮らしやすい地域をつくっていきませんか。



- ▶日時 10月16日(火) 18時30分～20時
- ▶場所 市民会館中ホール
- ▶対象 認知症や介護に関心のある方
- ▶内容 認知症に関する基礎知識の習得、認知症の方やその家族への支援の在り方など
- ▶受講料 無料
- ▶申し込み 9月21日(金)までに電話で高齢・介護グループ

認知症に関する
お問い合わせは
高齢・介護
グループ
☎05 5720



ので、認知症の方とその家族の生活を支えるには、医療や介護の関係者の支援だけでは充分ではありません。認知症であっても安心して暮らし続けられるまちをつくるためには、わたしたちが認知症を正しく理解していくことが大切です。

認知症の方とその家族は、周囲の方が認知症を理解していることで、必要な支援を求めやすくなります。

また、地域の方がちよつとした手助けをすることで、安心して自分らしく地域で暮らすことができます。